



酒田っ子

すくすく

第146回



子育て講座

東北公益文科大学 名誉教授
國眼 眞理子 先生

ママがいい！

三歳になったアッチちゃんは、いつもママと一緒にです。ママはアッチちゃんから「ママがいい！」と言われると嬉しい反面、毎日「ママがいい」と繰り返されると、可愛いわが子でも正直に言ううと疲れてしまいます。片時も離れないので、周囲に気兼ねしながら、大人の集まりに連れていくこともしばしばです。

近頃ではおしゃべりも達者になって「〇〇が好き」「△△はイヤ」と意思表示をはっきりします。そんなアッチちゃんを、パパが「パパと遊ぶうか」と誘っても「ママと遊ぶ」と言われてしまいますし、抱っこしようとするとう「いやー」「ママがいい」と言われてしまう始末。パパはアッチちゃんから拒絶されたように感じて、少々寂しく複雑な気分になっ

てしまいます。

でも諦めないでほしいのです。食事や遊び、絵本の読みきかせなどできるだけアッチちゃんと一緒に過ごす時間をつくってみてください。毎日、10分でも20分でもいいのです。接する機会や時間が少ないと、どうしても慣れているママにがちです。無理に関わろうとすると、逆効果で「パパ嫌い」と言われかねません。

一緒にいるときはアッチちゃんのペースに合わせて、アッチちゃん目線で穏やかに話しかけてみてください。大きな声や「〇〇しなさい」という指示口調は、それだけで怖いと感じさせてしまうので要注意です。

そして「ママがいい」と言われたら「パパは寂しいな」「パパはアッチちゃんのこと大好きだよ」と伝えてみてください。愛情は態度や言葉で伝えなければ、伝わりません。笑顔や忘れない、表情や態度でパパに対する安心感を育んでください。「ママがいい」は、子どもの成長とともにやがて減っていきます。

日本海と大地がつくる水と命の循環

鳥海山・飛島ジオパーク

リレーコラム

間 交流観光課観光戦略係

☎26-57559

第130回

川をのぼるサケ、
未来へつなぐ地域の宝

秋も深まり、日本海沿岸の川にはサケが帰ってくる季節を迎えました。生まれた川を忘れず、数年の旅を経て日本海を渡り再び故郷へ戻ってくる姿は、生命のたくましさや自然の循環を実感させてくれます。

鳥海山のふもとでは豊かな湧水が地域の川を潤し、冷たく清らかな流れを保っています。この環境こそがサケの生育を支え、長い旅を終えたサケにとって大切な「ふるさとの水」となってきました。

サケは古くから地域の食文化と深く結びついています。身や卵は貴重なタンパク源として利用され、保存食や季節の料理など、多様な形で人々の食卓を彩ってきました。さらに漁や加工に関わる知恵や習慣は、暮らしの一部として受け継がれてきた大切な文化でもあります。



一般社団法人鳥海山・飛島ジオパーク
推進協議会事務局
研究員
長船 裕紀氏

近年では、子どもたちがサケの遡上を観察したり、命のつながりを学んだりする教育活動も行われています。自分たちの足元にある自然と文化に触れる体験は、未来の地域を担う世代にとってかけがえのない学びとなります。

サケをめぐる自然と人との関わりは、「生物文化多様性」という考え方をよく示しています。自然の恵みを享受しながら、それを文化として継承してきた営みは、まさに地域の宝といえるでしょう。日本海と鳥海山の湧水が育むサケの物語は、これからも私たちが守り伝えていくべき大切な財産なのです。



▲サケの大きさに感動する園児たち